

第五回がん研若手コロキウム開催報告

令和5年7月27日、若手育成の一環として「第五回がん研若手コロキウム」を開催いたしました。本会は学生とポスドクを主役とした研究発表会であり、若手研究者の口頭発表および質疑応答のスキル向上を目的としています。本会の特徴として、学生・ポスドクに質問の優先権を与えたり Best Discusser 賞を設けるなど、若手研究者が積極的に質疑応答に参加できる環境を作っています。今年も学生・ポスドクからレベルの高い研究が発表され、白熱した議論がみられました。

(発表者5名、会場参加者27名、オンライン参加者28名)

Best Discusser 賞には Zhang Yuanyuan さん、**Best Presenter 賞**には Gong Linxiang さんが選ばれました。

【Best Presenter 賞】

Name : Gong Linxiang

Affiliation : Division of Oncology and Molecular Biology

Title : ELOVL6 - a new target of breast cancer therapy

【Best Discusser 賞】

Name : Zhang Yuanyuan

Affiliation : Division of Oncology and Molecular Biology



プログラム

13:00 - 13:10 Opening remarks

Session 1 (Chair: Tsunaki Hongu)

13:10 - 13:30 Gong Linxiang

13:30 - 13:50 Gerelsuren Batbayar

13:50 - 14:10 Nichole Marcela Rojas Chaverra

Session 2 (Chair: Kohsuke Tsuchiya)

14:25 - 14:45 Lei Xuelian

14:45 - 15:05 Sarah Momtazkari

15:10 - 15:20 Closing remarks

15:20 - 15:30 Awards ceremony





コロキウムを終えて

第五回がん研若手コロキウムの世話人を務めさせていただきました。本会も今年で5回目となり、既に所内の恒例行事としてご認識いただいているものと存じます。若手育成を目的とした本会ですが、学生・ポスドクが研究発表会の主役であることを主眼におきつつ、開催ごとに少しずつ変化を加えております。例えば、当初は **Best Discusser** 賞および **Best Presenter** 賞の投票を紙の投票券で行っていましたが、今はスマートフォンを用いた電子投票に変わっております。これにより集計作業が簡略化され、研究発表会の終了後に速やかに表彰式を行えるようになりました。学生やポスドクの皆さんは賞の獲得を目指して発表・質疑応答に頑張ってくれますので、こちらとしても結果を早く伝えてあげられるように工夫しております。また、今年からは各賞の受賞者に名前を刻印したプレートを贈呈することにいたしました。受賞の良い記念になれば幸いです、次回以降も若手が積極的に発表・質疑応答に参加する動機にもなってくれれば嬉しいです。

課題として、発表演題数が年々減少傾向にあります。今年はこれまでに最も少ない5演題であり、発表者の確保に苦労いたしました。所内では分野主任の退官に伴って一時的に分野数が減少したりしておりますので、演題の減少は構造的なものなのかもしれません。一方で、完成度の高い研究しか発表しないという傾向もあり、それが発表への敷

居を高めてしまっている可能性もあります。本会はいくまで発表の練習の場を提供することを目的としており、本人のやる気さえあれば研究の完成度は問わないのですが、投票で評価される以上はできるだけ完成した研究を発表したいという気持ちも理解できます。もっと気軽に参加してもらうためには、例えば **Best Presenter** 賞を廃止して発表者全員を表彰するなど、大幅な制度の変更が必要なのかもしれません。

今回もハイブリッド方式での開催でした。研究協力系の皆様のご尽力もありスムーズに進行させることが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、鈴木所長、本宮助教のお力添えに心より感謝申し上げます。最後に、参加してくださった皆様、ありがとうございました。

がん進展制御研究所・PI/准教授
土屋晃介